主に導かれて

日本基督教団 畦野（うねの）教会 牧師 塚本 吉興
Tsukamoto Yoshioki

「わたしはあなたを母の胎に造る前から、あなたを知っていた。母の胎から生まれる前に、わたしはあなたを聖別し、諸国民の預言者として立てた。」（エレミヤ書一章五節）

私にとって教会はいつも楽しいところでした。クリスチャンホームに育った私は、日曜日になると両親と共に教会に行き、一日そこで過ごすこともありました。そんな私が牧師を志すようになったのは、人間的な意味では自然の成り行きであったのかも知れません。しかし、背後には常に神さまの導きがありました。

私が伝道献身者として、神の召しに応えることになった転機は、高校卒業の時に訪れました。一七歳で洗礼を受けた私は、将来は何か神さまに仕える仕事をしたいと思っていましたが、具体的にそれが何かということは分からないままでした。当時、私はアメリカの片田舎にあるクリスチャンの高校に通っていました。他の何人かの日本からの留学生がビジネスの勉強を志す中、私は祈りの中で、「日本にはすでに世界を飛び回る多くのビジネスマンがいる。今、必要なのは伝道者だ。」と示されたように感じました。そこで、シカゴにあるムーディ聖書学院に通うことに決めました。その時の私の夢は、宣教師としてメキシコに行くことでした。しかし、神さまは、私の人生に別のご計画をお持ちだったのです。

大学二年の夏休み、米国からの宣教師が開拓伝道をした教会の礼拝に出席しました。日本語に苦労しながら懸命に説教される姿を見て、「自分は今から日本語を勉強する必要はない。神さまが私を導いておられるのは、日本での牧会なのかも知れない。」という思いが与えられました。大学を卒業後、日本で英会話の講師をしながら、Cコースで補教師の準允を受けましたが、日本で伝道するならば、日本で神学をしっかりと学ばなければならないと思わされ、東京神学大学へと導かれました。東神大での神学の学び、志を同じくする友との出会いにはかけがえのないものがあります。献身に至る私の人生の歩みは、最初から神の御手の導きの中にあったのです。

神学生時代に通っていた教会の牧師が青年会でお話しくださった時に、「若い皆さんは、人生に一度は、神が伝道者としての召しを与えられているか、真剣に考えてみなさい。」と言われました。召命は、私たちからすれば晴天の霹靂のようであっても、神は大いなるご計画の中に一人ひとりを伝道者として立てるために養っていてくださいます。通ってきた道はそれぞれですが、その歩みを神がすべて導かれるのです。献身を迷っておられる方、あなたの人生を振り返るならば、神の導きの御手が、それこそ生まれる前から常にそこにあったことに気づかされるのではないでしょうか。信仰を持って、献身の一歩を踏み出していただきたいと思います。

神の望みがあなたのうちに

大学院博士課程前期課程二年 菊池 美穂子
Kikuchi Mihoko

「憧れならやめてほしい。」献身を考え始め、初めて出席した青年の集いでのある先生の言葉でした。伝道者として既に歩き始めておられる先生の真実の言葉だと思います。でも、その時の私には衝撃でした。憧れという気持ちで牧師になろうと思っているのならやめてほしい。憧れしかなかった私は、その言葉を聞いて、もうこの学校に来ることは無いだろうと思いつつ、東神大を後にしました。その後も、それに追い打ちをかけるようなことが次々と起こり、憧れはすっかり覚めて、献身は絶対しないと決意しました。

その固い決意の翌日、思いがけないところで「神学校に行かないの？」と聞かれました。そこで教えられたことは、献身することは世捨て人になることではないということ、それと、東神大の楽しい寮生活（避難訓練）の話でした。（今の私なら、運動会かクリスマス愛餐会の話をすることでしょう。）献身のためにもっと何か感動的な出来事があるかと思っていたのに。これが、私の献身への最後の一歩のきっかけです。

もう一つ、献身は自分と神様のことだから、しっかり祈るように言われました。その頃、教会に疲れ果てていた私は、すっかり主を見失っていました。次から次へと止むことのない人の声や出来事が、私を主から引き離そうとするのです。人のせいにして、神様と真実に向き合うことを拒否していたのかもしれません。あなたは伝道者には向いていない、あなたには無理、こんな厳しい教会の現実に耐えられるはずがない。そして、それは私の声になりました。そう！　私は牧師には向いていない。

それがはっきりわかったので、私は一歩を踏み出すことができました。「あなたがたの内に働いて、御心のままに望ませ、行わせておられるのは神であるからです。（フィリピ二章一三節）」私には牧師に相応しいものは何もありません。今でもやり遂げる自信は全くなく、いつでも逃げ出しそうです。でも、献身の思いは、他の誰でもない神様が起こしてくださったのだと分かったのです。この思いは決して自分で努力して獲得できるものではありません。あなたのまわりを見回してみて。同じように毎主日礼拝で御言葉を聞いていても、皆が同じように伝道者になりたいという思いを持っているとは限りません。（最も、受洗した人は皆、伝道に召されているはずですけど。）神様がこんな私に目を留めて、選ばれて、私の中に神様の思いが起こされているとしたら、こんなに不思議で嬉しいことはありません。献身を考えている、その思いがあったら、もうそれだけでも立派なしるしだと思います。

「憧れならやめてほしい。」これは真実の言葉です。伝道は確かに厳しいこと。十字架の道を歩まれた主の後を追っていくのですから。ただ、ここでしか得られない経験、喜びがあります。主の御言葉を楽しみに待っている人がいます。主は、収穫は多いと約束してくださっています。そして、主の弟子として走り終えたとき、主は私を食事の席に着かせて給仕してくださる。その主の食卓を楽しみに、主がストップをかけられるまで走り続けようと思います。